

2018年業績紹介

業績

2018年業績紹介

(学会・論文・研究費一覧・学位取得者)

2018年学会一覧

《学会発表（国内）》

2018.1.12 第10回難治性肝・胆・膵疾患カンファレンス(福岡)
武富紹信
特別講演 進行肝臓に対する外科治療

2018.1.26 第88回大腸癌研究会(東京)
吉田雅、本間重紀、大野陽介、市川伸樹、川村秀樹、武富紹信
原発性大腸癌における占拠部位別の手術成績

2018.2.9 第17回和歌山外科治療研究会(和歌山)
武富紹信
特別講演 進行肝臓に対する外科治療の発展と課題～肝臓移植と肝切除を含めて～

2018.2.24 第43回北海道小児がん研究会(札幌)
本多昌平、宮城久之、荒桃子、湊雅嗣、藤好直、武富紹信
肝芽腫における個別化医療を目指した分子マーカーの確立

2018.3.2-3 第45回膵膵島移植研究会(仙台)
渡辺正明、腰塚靖之、蔵谷大輔、吉田雅、小宮正臣、旭火華、小野仁、嶋村剛、武富紹信
膵島移植の成績改善に向けて。我々のこれまでの取り組みとこれからの展開

2018.3.3 第98回日本小児外科学会北海道地方会(札幌)
竹元小乃美、荒桃子、本多昌平、宮城久之、羽田光輝、斎藤智哉、横山大輔、桑原健、高桑恵美、武富紹信
重複腸管による腸捻転が病因と推察された小腸閉鎖症、胎便性腹膜炎の一例

2018.3.3-4 第122回日本消化器病学会北海道支部例会(札幌)
島田慎吾、神山俊哉、横尾英樹、折茂達也、若山顕治、長津明久、蒲池浩文、武富紹信
肝細胞癌切除後10年生存例における長期予後因子の検討

2018.3.7-9 第90回日本胃癌学会総会(東京)
Kawamura H, Ohno Y, Ichikawa N, Yoshida T, Homma S, Taketomi A
Anastomotic complications after laparoscopic total gastrectomy with esophagojejunostomy constructed by circular stapler versus linear stapler

柴崎晋、松尾一勲、鶴安浩、天野さやか、梅木祐介、後藤愛、戸松真琴、中村謙一、中内雅也、菊地健司、中村哲也、角谷慎一、稲葉一樹、加藤悠太郎、花井恒一、宇山一朗
Robotic surgery for adenocarcinoma of the esophagogastric junction

2018.3.8-9 第54回日本腹部救急医学会総会(東京)
白川智沙斗、本間重紀、杉山昂、大野陽介、市川伸樹、吉田雅、川村秀樹、武富紹信
広汎子宮全摘術後に外腸骨動脈が起点となって生じた絞扼性イレウスの3例

長津明久、神山俊哉、島田慎吾、若山顕治、折茂達也、横尾英樹、蒲池浩文、武富紹信
急速な増大を来したKasabach-Merritt症候群を伴った肝巨大血管腫の切除例

2018.4.5-7 第118回日本外科学会定期学術集会(東京)

武富紹信
ALPPS手術の意義—あり vs なし—

岡田尚樹、神山俊哉、横尾英樹、折茂達也、若山顕治、島田慎吾、長津明久、蒲池浩文、畑中佳奈子、畑中豊、武富紹信
肝細胞癌切除後の予後再発におけるHLA class I分子発現の意義の検討

大平将史、吉住朋晴、泉琢磨、湯川恭平、藤本侑希子、井口詔一、下川雅弘、坂田一仁、川崎淳司、本村貴志、間野洋平、戸島剛男、伊藤心二、原田昇、播本憲史、池上徹、副島雄二、前原喜彦
肝内胆管癌の長期予後における炎症性マーカーの意義

藤好直、本多昌平、湊雅嗣、宮城久之、荒桃子、武富紹信
肝芽腫におけるシスプラチン耐性に関わるDNA異常低メチル化の検討

柴崎晋、松尾一勲、鶴安浩、天野さやか、梅木祐介、後藤愛、戸松真琴、中村謙一、中内雅也、菊地健司、中村哲也、角谷慎一、稲葉一樹、加藤悠太郎、花井恒一、宇山一朗
食道胃接合部腺癌に対するロボット支援下経裂孔の下縦隔郭清

折茂達也、神山俊哉、横尾英樹、若山顕治、島田慎吾、長津明久、蒲池浩文、武富紹信
胆管内腫瘍栓を伴う肝細胞癌に対する胆管温存肝切除の治療成績

後藤了一、川村典生、渡辺正明、腰塚靖之、太田稔、山下健一郎、武富紹信、嶋村剛
肝移植後de novo ドナー特異的HLA抗体に対する免疫抑制強化療法の効果

川村典生、腰塚靖之、渡辺正明、後藤了一、太田稔、鈴木友己、神山俊哉、武富紹信、嶋村剛
生体肝移植における総胆管時間の意義：180分以上の総胆管時間は術後胆道狭窄のリスクを上昇させる

本多昌平、宮城久之、湊雅嗣、荒桃子、藤好直、北河徳彦、田中祐吉、田中水緒、新聞真人、武富紹信
肝芽腫microRNA発現異常に関わるDNAメチル化異常

小林正幸、本多昌平、荒桃子、宮城久之、武富紹信
腸管重複症に先天性空腸閉鎖症と胎便性腹膜炎を合併した新生児の1例

横尾英樹、神山俊哉、柿坂達彦、折茂達也、若山顕治、敦賀陽介、蒲池浩文、武富紹信
大腸癌肝転移切除後再発に対する外科治療の適応

財津雅昭、植田隆太、田中友香、河北一誠、田村元、桑原博昭、今裕史、武田圭佐、小池雅彦、赤阪嘉宣
胃癌切除症例における術前リンパ球—単球比と予後の検討

木井修平、北村秀光、項慧慧、橋本真一、池尾一穂、豊島雄二郎、岡田尚樹、大野陽介、市川伸樹、吉田雅、本間重紀、川村秀樹、高橋典彦、武富紹信
DSS誘発性大腸炎モデルの病態発症におけるSTAT1の関与

折茂達也、神山俊哉、横尾英樹、若山顕治、島田慎吾、長津明久、蒲池浩文、武富紹信
胆管内腫瘍栓を伴う肝細胞癌に対する胆管温存肝切除の治療成績

豊島雄二郎、北村秀光、大野陽介、項慧慧、市川伸樹、吉田雅、

本間重紀、川村秀樹、高橋典彦、武富紹信
IL-6は樹状細胞の機能抑制を介し、大腸がん肝転移を促進する
宮城久之、本多昌平、荒桃子、岡田忠雄、武富紹信
臍部監視培養からみたLPECにおけるSSIの検討

島田慎吾、神山俊哉、横尾英樹、折茂達也、若山顕治、長津明久、蒲池浩文、武富紹信
耐糖能異常を伴う肝細胞癌切除症例の予後、臨床病理学的特徴

脇坂和貴、神山俊哉、横尾英樹、長津明久、島田慎吾、若山顕治、折茂達也、蒲池浩文、武富紹信
混合型肝癌の悪性度診断における癌幹細胞マーカーの有用性

若山顕治、神山俊哉、横尾英樹、折茂達也、島田慎吾、長津明久、蒲池浩文、武富紹信
StageⅢ～ⅣB進行肝細胞癌に対する集学的治療成績の検討

齋藤智哉、神山俊哉、長津明久、島田慎吾、若山顕治、折茂達也、横尾英樹、蒲池浩文、武富紹信
外科的加療を施行することで確定診断に至った悪性黒色腫の肝転移の1切除例

羽田光輝、本間重紀、大野陽介、市川伸樹、吉田雅、川村秀樹、武富紹信
潰瘍性大腸炎に対する大腸全摘術後のafferent limb syndromeに対し、腸管固定術が有効であった1例

白川智沙斗、後藤了一、川村典生、腰塚靖之、渡辺正明、鈴木友己、神山俊哉、遠藤知之、嶋村剛、武富紹信
HIV/HCV重複感染肝硬変に対し脳死肝移植を施行した1例

海老沼羽太、後藤了一、川村典生、腰塚靖之、渡辺正明、鈴木友己、神山俊哉、山下健一郎、武富紹信、嶋村剛
同腔内で発症したAlagille症候群に対して生体肝移植を施行した2例

大野陽介、北村秀光、豊島雄二郎、木井修平、市川伸樹、吉田雅、本間重紀、川村秀樹、武富紹信
大腸癌における免疫チェックポイント阻害剤の有効症例の拡大を目指した新規がん免疫治療戦略

本間重紀、大野陽介、市川伸樹、吉田雅、川村秀樹、武富紹信
直腸癌に対するReduced port surgery

神山俊哉、折茂達也、若山顕治、島田信吾、長津明久、横尾英樹、蒲池浩文、嶋村剛、武富紹信
肝エキノコックス症に対する肝切除治療成績

蒲池浩文、折茂達也、若山顕治、長津明久、島田慎吾、横尾英樹、後藤了一、神山俊哉、武富紹信
肝臓同時切除の周術期管理と成績

横尾英樹、神山俊哉、柿坂達彦、折茂達也、若山顕治、敦賀陽介、蒲池浩文、武富紹信
大腸癌肝転移切除後再発に対する外科治療の適応

深井原、島田慎吾、小林希、中敷拓哉、石川隆壽、柴田賢吾、梅本浩平、鈴木崇史、三野和宏、嶋村剛、武富紹信
心停止ドナー肝のNr12と生存シグナルを増強させる薬剤性コンディショニング法の探索

長津明久、神山俊哉、島田慎吾、若山顕治、折茂達也、横尾英樹、蒲池浩文、武富紹信
当科における多包性肝エキノコックス症に対する腹腔鏡下肝切除の経験

2018.4.6 第4回日本小児へそ研究会（東京）
荒桃子、本多昌平、羽田光輝、宮城久之、武富紹信
一次的臍形成術を行った尿管管癒合併膈ヘルニアの1乳児例

佐藤彩、湊雅嗣、大場豪、山本浩史
腹壁破裂・臍帯ヘルニアに対する当院の臍形成術の工夫
武富紹信

2018.5.10-11 第6回癌と代謝研究会（奄美大島）
藤好直、本多昌平、湊雅嗣、荒桃子、宮城久之、小林希、武富紹信
シスプラチン耐性肝芽腫細胞株に高発現したトランスポーター遺伝子

2018.5.18 Surgical oncology meeting（札幌）
後藤了一
HCCに対する生体肝移植と移植後再発に対する治療経験

2018.5.19 オストメイトのための医療講演会（札幌）
本間重紀、川俣太、市川伸樹、吉田雅、柴崎晋、川村秀樹、武富紹信
ストーマの合併症について

2018.5.25-26 第36回 日本肝移植研究会（東京）
後藤了一、川村典生、渡辺正明、腰塚靖之、太田 稔、武富紹信、嶋村 剛
生体肝移植後de novo ドナー特異的HLA抗体に対する免疫抑制強化療法の効果

2018.5.30-6.1 第55回日本小児外科学会学術集会（新潟）
河北一誠、本多昌平、宮城久之、荒桃子、奥村一慶、武富紹信
仙尾部奇形腫と尿生殖道遺残による水腫症とを合併した一女児例

宮城久之、本多昌平、荒 桃子、湊 雅嗣、河北一誠、奥村一慶、武富紹信
臍部監視培養からみたLPECおよび臍ヘルニア根治術症例に対する比較検討

荒桃子、本多昌平、宮城久之、河北一誠、奥村一慶、武富紹信
先天性胆道拡張症における手術時肝線維化と術後中長期的経過の検討

本多昌平、宮城久之、湊雅嗣、荒桃子、藤好直、北徳彦、田中祐吉、田中水緒、新聞真人、榎山英三、武富紹信
肝芽腫エビゲナム異常解析による個別化治療を目指した分子マーカーの確立

2018.6.10 第302回日本小児科学会北海道地方会（札幌）
荒桃子、本多昌平、羽田光輝、河北一誠、宮城久之、兼次洋介、武富紹信
尿管管癒合併膈ヘルニアの1乳児例

藤原伸一、鎌田晃嘉、戸坂成昭、高橋美智子、今野武津子、小林徳雄、荒桃子、宮城久之、本多昌平、武富紹信
乳児期以降に鉄欠乏性貧血が遷延、小腸重積が反復し5歳で診断に至った小腸若年性ポリープの1例

2018.6.14-15 第54回日本肝臓学会総会（大阪）

大平将史、吉住朋晴、泉琢磨、湯川恭平、小齊侑希子、井口詔一、下川雅弘、坂田一仁、川崎淳司、本村貴志、間野洋平、戸島剛男、伊藤心二、原田 界、播本憲史、池上 徹、副島雄二、前原喜彦
肝内胆管癌の長期予後における各種炎症性マーカーの意義

坂本謙、土肥弘義、河合裕成、島垣智成、青木孝彦、由雄祥代、大澤陽介、武富紹信、考藤達哉
抑制型受容体Siglecファミリーの網羅的解析－慢性肝疾患におけるNK細胞発現Siglec7-、-9の意義。

2018.6.15 平成30年度日本肝臓学会前期教育講演会（大阪）
武富紹信
肝癌の外科的治療

2018.6.16 第24回北海道内視鏡外科研究会（札幌）
本間重紀、川俣太、市川伸樹、吉田雅、柴崎晋、川村秀樹、武富紹信
腹腔鏡下S状結腸切除術

2018.6.23 第29回 北海道肝がん研究会（札幌）
後藤了一、財津雅昭、川村典生、渡辺正明、樋田泰浩、小川浩司、嶋村 剛、武富紹信
生体肝移植後肝癌再発に対し、分子標的薬を含む集学的治療により長期生存が得られた1例

2018.6.28-29 第54回日本肝癌研究会（久留米）
豊島雄二郎、北村秀光、大野陽介、項慧慧、市川伸樹、吉田雅、本間重紀、川村秀樹、高橋典彦、武富紹信
胆がん生体で産生されるIL-6は肝臓における抗腫瘍免疫を抑制し、転移性大腸がん細胞の肝転移形成を促進する

島田慎吾、神山俊哉、横尾英樹、折茂達也、若山顕治、長津明久、蒲池浩文、武富紹信
耐糖能異常を伴う肝細胞癌切除症例の予後、臨床病理学的特徴、術後合併症

横尾英樹、神山俊哉、折茂達也、若山顕治、島田慎吾、長津明久、大畑多嘉宜、蒲池浩文、武富紹信
ソラフェニブ効果予測バイオマーカー

若山顕治、神山俊哉、横尾英樹、折茂達也島田慎吾、長津明久、蒲池浩文、武富紹信
肝細胞癌に対する腹腔鏡下肝切除の有用性の検討

2018.6.29-7.1 第63回日本透析医学会学術集会・総会（神戸）
財津雅昭、植田隆太、田中友香、河北一誠、今裕史
大動脈弁置換術後にS状結腸-S状結腸瘻を形成した透析患者の1例

2018.6.30 第16回日本ヘルニア学会学術集会（札幌）
本多昌平、宮城久之、荒桃子、川村秀樹、武富紹信
大網陥陥および非還納症例に対するLPEC法の検討

2018.6.7-9 第30回肝胆膵外科学会定期学術集会（横浜）
Nagatsu A, Kamiyama T, Shimada S, Wakayama K, Orimo T, Yokoo H, Kamachi H, Taketomi A
Single-center experience in 5 cases of simultaneous resection for synchronous colorectal liver metastasis

Orimo T, Kamiyama T, Yokoo H, Wakayama K, Shimada S, Nagatsu A, Kamachi H, Taketomi A
Impact of functional liver reserve on posthepatectomy

liver failure for cases undergoing hepatectomy for hepatocellular carcinoma

Shimada S, Kamiyama T, Yokoo H, Orimo T, Wakayama K, Nagatsu A, Kamachi H, Taketomi A
The elaborate evaluation of anatomy and liver function reserve to safely perform hepatectomy for huge hemangioma

Yokoo H, Kamiyama T, Orimo T, Shimada S, Nagatsu A, Ohata T, Kamachi H, Taketomi A
Impact of preoperative conversion chemotherapy for multiple liver metastasis of colorectal cancer

Kamachi H, Orimo T, Tsuruga Y, Wakayama K, Nagatu A, Shimada S, Yokoo H, Goto R, Kamiyama T, Taketomi A
Left trisectionectomy for perihilar bile duct cancer: application of Transparenchymal Glissonian Approach (TGA) for advanced cases.

2018.7.11-13 第73回日本消化器外科学会総会（鹿児島）
大平将史、吉住朋晴、泉琢磨、湯川恭平、小齊侑希子、井口詔一、下川雅弘、坂田一仁、川崎淳司、本村貴志、間野洋平、戸島剛男、伊藤心二、原田界、播本憲史、池上徹、副島雄二、前原喜彦
肝内胆管癌の予後予測における炎症性マーカーの意義

Zaitsu M, Ueda R, Tanaka Y, Kawakita I, Tamura M, Kuwahara H, Kon H, Takeda K, Koike M, Akasaka N
A Prognostic Factor for Gastric Cancer using Lymphocyte to Monocyte Ratio

折茂達也、神山俊哉、横尾英樹、若山顕治、島田慎吾、長津明久、蒲池浩文、武富紹信
RFAまたはTACE後の再発肝細胞癌に対するサルベージ肝切除の検討-プロペンシティブスコアを用いた解析

島田慎吾、神山俊哉、横尾英樹、折茂達也、若山顕治、長津明久、蒲池浩文、武富紹信
肝細胞癌切除後10年生存例における長期予後因子の検討

川村秀樹、大野陽介、市川伸樹、吉田雅、本間重紀、武富紹信
腹腔鏡下残胃全摘の成績

脇坂和貴、神山俊哉、横尾英樹、長津明久、島田慎吾、若山顕治、折茂達也、蒲池浩文、武富紹信
混合型肝癌の癌幹細胞マーカーについての検討

Wakayama K, Kamiyama T, Yokoo H, Orimo T, Shimada S, Nagatsu A, Kamachi H, Taketomi A
Usefulness of Functional Resection Rate Calculated by 3D CT / 99 mTc-GSA SPECT Fusion Imaging.

本間重紀、大野陽介、市川伸樹、吉田雅、川村秀樹、武富紹信
腹腔鏡下直腸切除術における縫合不全予防対策

神山俊哉、折茂達也、若山顕治、島田信吾、長津明久、横尾英樹、蒲池浩文、嶋村剛、武富紹信
下大静脈浸潤を伴う肝エキノコックス症に対する肝切除治療成績

Kamachi H, Orimo T, Tsuruga Y, Wakayama K, Nagatu A, Shimada S, Yokoo H, Kamiyama T, Taketomi A
Neoadjuvant chemoradiotherapy for locally advanced

pancreatic cancer with low dose Gemcitabine and wide irradiation area.

吉田雅、本間重紀、大野陽介、市川伸樹、川村秀樹、武富紹信
結腸癌に対するRPS (SILS+one) による腹腔鏡下切除の治療成績

長津明久、神山俊哉、島田慎吾、若山顕治、折茂達也、横尾英樹、
蒲池浩文、武富紹信
Harmonic scalpelとTissue link DS3.0を用いた当科での肝切
離法の検討

横尾英樹、神山俊哉、折茂達也、若山顕治、島田慎吾、長津明久、
蒲池浩文、武富紹信
術後低用量gemcitabineベースの化学療法による肝内胆管癌の
予後改善にむけ取り組み

柴崎晋、戸松真琴、中村謙一、中内雅也、菊地健司、中村哲也、
角谷慎一、稲葉一樹、加藤悠太郎、花井恒一、宇山一朗
進行食道胃接合部腺癌に対する経裂孔アプローチ ～腹腔鏡vs
ロボット～

市川伸樹、神山俊哉、横尾英樹、本間重紀、大野陽介、吉田雅、
川村秀樹、若山顕治、折茂達也、武富紹信
大腸癌同時性肝転移における術前化学療法の意義

2018.7.21 第5回肝臓と糖尿病・代謝研究会(米子)
島田慎吾、神山俊哉、横尾英樹、折茂達也、長津明久、大畑多嘉
宣、蒲池浩文、武富紹信
耐糖能異常を伴う肝細胞癌切除症例の予後、臨床病理学的特徴、
術後合併症

2018.7.21-22 第13回トランスポーター研究会年会(福岡)
藤好直、本多昌平、小林希、湊雅嗣、武富紹信
CDDP耐性肝芽腫細胞株のGlucose transporter発現異常

2018.7.28 第113回 日本臨床外科学会北海道支部総会(旭川)
市村健太郎、長津明久、大畑多嘉宣、岡田宏美、島田慎吾、折茂
達也、横尾英樹、蒲池浩文、神山俊哉、武富紹信
術後長期無再発生存中の肝原発腺扁平上皮癌の1例

田仲大樹、本間重紀、吉田雅、市川伸樹、川俣太、柴崎晋、川村
秀樹、神山俊哉、岡田宏美、武富紹信
肝細胞癌大腸転移と腺癌が混在した上行結腸癌の一切除例

高橋直規、後藤一、財津雅昭、川村典生、渡辺正明、神山俊哉、
嶋村剛、武富紹信
南回りB2/3胆管を伴う肝左葉グラフトを用いた生体肝移植の一
例

佐藤彰、植村一仁、小林正幸、三野和弘、高橋宏明、佐々木壱
魯血を主訴として発見された小腸リンパ管腫の1例

市川伸樹、本間重紀、吉田雅、川俣太、柴崎晋、川村秀樹、武富
紹信
腹腔鏡下大腸切除における技術認定の位置付け

2018.7.6 第89回大腸癌研究会(新潟)
吉田雅、本間重紀、川俣太、市川伸樹、柴崎晋、川村秀樹、武富
紹信
pT1 (SM) 早期大腸癌の臨床病理学的特徴と治療成績
市川伸樹、本間重紀、吉田雅、本多昌平、川俣太、柴崎晋、川村

秀樹、荒桃子、河北一誠、武富紹信
当院における小腸腫瘍の経験

2018.7.7 第2回腹腔鏡下大腸切除研究会学術集会(新潟)
市川伸樹、本間重紀、吉田雅、川俣太、柴崎晋、川村秀樹、武富
紹信
認定医の有用性に関する後ろ向き試験 ー腹腔鏡下直腸前方切除
における 技術認定医介入の有用性ー

市川伸樹、本間重紀、吉田雅、川俣太、柴崎晋、川村秀樹、武富
紹信
認定医による手術のクオリティ に関する前向き試験 ー技術認定
医による腹腔鏡下大腸切除の 精度と安全性に関する検討ー

2018.8.3-8.4 7th Reduced Port Surgery Forum (札幌)
川村秀樹、川俣太、市川伸樹、吉田雅、柴崎晋、本間重紀、武富
紹信
Reduced port gastrectomyの周術期成績の検討

2018.9.1 第10回小児消化器病フォーラム(札幌)
河北一誠、本多昌平、荒桃子、武富紹信
自然軽快した特発性胆管狭窄の1例

2018.9.1 第6回北海道サージカルアカデミー(札幌)
本間重紀、川俣太、市川伸樹、吉田雅、柴崎晋、川村秀樹、武富
紹信
内視鏡外科技術認定医取得に向けて傾向と対策

2018.9.4 第5回消化器内科セミナー(札幌)
本間重紀、川俣太、市川伸樹、吉田雅、柴崎晋、川村秀樹、武富
紹信
他科と連携しておこなう骨盤外科学術

2018.9.15-16 第2回 北海道外科関連学会機構 合同学術集会
(HOPES)(札幌)
折茂達也、神山俊哉、横尾英樹、島田慎吾、長津明久、大畑多嘉
宣、蒲池浩文、武富紹信
定型化した肝右葉切除術

南波宏征、神山俊哉、横尾英樹、折茂達也、島田慎吾、長津明久、
大畑 多嘉宣、蒲池浩文、武富紹信
肝血管腫術後に多発残肝再発を来した1例

田仲大樹、本間重紀、吉田雅、市川伸樹、川俣太、柴崎晋、川村
秀樹、三橋智子、武富紹信
所属リンパ節に乳癌と結腸癌の転移が混在した上行結腸癌の一切
除例

鈴木琢士、荒桃子、河北一誠、本多昌平、高桑恵美、武富紹信
病的先進部を伴った年長小児の腸重積症3例の経験

和久井洋佑、財津雅昭、川村典生、渡辺正明、後藤一、嶋村剛、
大岡智学、松居喜朗、武富紹信
生体肝移植後肝動脈血栓症に対する肝動脈再建において端側吻合
を用いた1例

荒桃子、河北一誠、本多昌平、武富紹信
当院でのLPEC術後再発症例の検討

三國夢人、荒桃子、河北一誠、本多昌平、武富紹信
LPEC術後に同側内鼠径ヘルニアで再発した乳児の1例
別所光、後藤一、財津雅昭、川村典生、渡辺正明、嶋村剛、武

富紹信
長期待機後に脳死肝移植を施行しえた原発性硬化性胆管炎の2症
例の検討

市村健太郎、吉田祐一、敦賀陽介、正村裕紀、数井啓哉
腎細胞癌術後15年目に脾転移をきたし切除しえた1例

2018.9.22-23 第123回 日本消化器病学会北海道支部例会(札
幌)
横尾英樹、神山俊哉、折茂達也、島田慎吾、長津明久、大畑多嘉
宣、蒲池浩文、武富紹信
肝細胞癌切除後再発における分子標的薬の治療戦略 ーさらなる
治療成績の向上をめざしてー

大畑多嘉宣、神山俊哉、長津明久、島田慎吾、折茂達也、横尾英
樹、蒲池浩文、武富紹信
集学的治療により長期生存中である肝細胞癌術後腹膜転移の1例

市村健太郎、川村典生、財津雅昭、渡辺正明、後藤一、嶋村剛、
武富紹信
慢性肝障害にoverlapした急性E型肝炎に対し、肝移植を施行し
た2例

南波宏征、柴崎晋、川俣太、市川伸樹、吉田雅、本間重紀、川村
秀樹、武富紹信
腹腔鏡下に修復した巨大な成人Bochdalek孔ヘルニアの1例

田仲大樹、本間重紀、吉田雅、市川伸樹、川俣太、柴崎晋、川村
秀樹、神山俊哉、岡田宏美、武富紹信
肝細胞癌大腸転移と腺癌が混在した上行結腸癌の一切除例

和久井洋佑、後藤一、財津雅昭、川村典生、渡辺正明、嶋村剛、
武富紹信
若年発症の急性肝不全型Wilson病に対し待機的に脳死肝移植を
施行した1例

鈴木琢士、荒桃子、河北一誠、本多昌平、藤原伸一、高橋美智子、
今野武津子、高桑恵美、武富紹信
乳児期からの貧血および小腸重積を反復した小腸若年性ポリープ
の1幼児例

2018.9.27-29 第77回日本癌学会学術総会(大阪)
藤好直、本多昌平、湊雅嗣、小林希、武富紹信
Evaluation of cisplatin-resistant associated genes in
hepatoblastoma cell lines.

Okada N, Sugiyama K, Kitamura H, Yokoo H, Kamiyama
T, Taketomi A
Diacylglycerol kinase alpha inhibitor exerts bifunctional
antitumor effects

Ohno Y, Kitamura H, Toyoshima Y, Xiang H, Sumida
K, Kaneumi S, Homma S, Kawamura H, Takahashi N,
Taketomi A
Lack of IL-6 in the tumor microenvironment augments
type-1 anti-tumor immune responses

早坂孝宏、大畑多嘉宣、横尾英樹、小林希、神山俊哉、武富紹信
FABP5発現調節した肝癌細胞株のリビドミクス解析

2018.9.29 第1回北海道移植免疫研究会(札幌)
渋谷一陽、渡辺正明、巖塚慶一、金沢亮、財津雅昭、川村典生、

後藤一、武富紹信
球状肝細胞の肝細胞移植における有用性について

2018.10.3-5 第53回日本移植学会(東京)
渡辺正明、藤塚靖之、渋谷一陽、巖谷大輔、吉田雅、後藤一、
財津雅昭、川村典生、嶋村剛、武富紹信
本邦での脾臓移植の成績改善に向けて。我々のこれまでの取り組
みとこれからの展開

渡辺正明、Yao M H, Kumagai-Braesch M, Torbjörn
Lundgren, Bo Goran Ericzon
ベラタセプトを用いたドナー抗原特異的な免疫調整細胞誘導

渡辺 正明、Yao M H, Torbjörn Lundgren, Claes-Göran
Östenson, Makiko Kumagai-Braesch
脾臓移植における非造血性エリスロポエチン類似体、ARA 290
の効果

後藤一、川村典生、渡辺正明、財津雅昭、嶋村 剛、武富紹信
De novoドナー特異的HLA抗体陽性の生体肝グラフト線維化進
行症例の特徴

2018.10.6 第13回 脾 瘍 術 前 治 療 研 究 会 (PREP2018
FUKUOKA)(福岡)
神山俊哉、武富紹信
局所進行脾癌に対する低用量Gemcitabine併用広範囲照射の術
前放射線化学療法の試み

2018.10.6 第39回日本大腸肛門病学会北海道支部例会(札幌)
田仲大樹、本間重紀、吉田雅、市川伸樹、川俣太、柴崎晋、川村
秀樹、三橋智子、武富紹信
所属リンパ節に乳癌と結腸癌の転移が混在した上行結腸癌の一切
除例

市川伸樹、本間重紀、吉田雅、川俣太、柴崎晋、川村秀樹、武富
紹信
腹腔鏡下低位前方切除において狭骨盤が手術操作に与える影響に
関する検討

川俣太 沢田亮史 市川伸樹、吉田雅、柴崎晋、本間重紀、川村
秀樹、武富紹信
ゲノム解析を利用した大腸原発癌およびその肝転移に対する
新規治療戦略

2018.11.1-4 第26回日本消化器関連学会週間(神戸)
長津明久、神山俊哉、大畑多嘉宣、島田慎吾、若山顕治、折茂達
也、横尾英樹、蒲池浩文、武富紹信
当科における肝細胞癌術後早期再発症例の検討

市川伸樹、本間重紀、吉田雅、川俣太、柴崎晋、川村秀樹、武富
紹信
内視鏡外科技術認定取得時の腹腔鏡下低位前方切除における習熟
度と安全性に関する検討

坂本讓、土肥弘義、河合裕成、島垣智成、青木孝彦、由雄祥代、
大澤陽介、考藤達哉
肝硬変、肝癌の病態におけるNK細胞機能性分子Siglec-7の意義

柴崎晋、戸松真琴、中村謙一、中内雅也、菊地健司、角谷慎一、
稲葉一樹、加藤悠太郎、花井恒一、杉岡篤、宇山一朗
腹腔鏡下幽門側胃切除におけるLandmarkに基づいた内側アプ
ローチによる横行結腸間膜授動

2018.11.9-10 第73回日本大腸肛門病学会学術集会（東京）
沢田亮史、本間重紀、吉田雅、市川伸樹、川俣太、柴崎晋、川村秀樹、武富紹信
肝細胞癌術後経過中に認めた肝細胞癌大腸転移と上行結腸癌の衝突癌の一切除例

吉田雅、本間重紀、川俣太、市川伸樹、柴崎晋、川村秀樹、武富紹信
pT1（SM）早期大腸癌の臨床病理学的特徴と治療成績

市川伸樹、神山俊哉、横尾英樹、本間重紀、前田好章、濱田朋倫、篠原敏樹、敦賀陽介、敦井啓蔵、吉田雅、川俣太、柴崎晋、川村秀樹、蒲池久、大畑多嘉宜、武富紹信
同時性肝転移における術前化学療法の意義

2018.11.7 第170回群馬肝癌検討会（群馬）
武富紹信
肝癌治療における薬物療法～肝臓外科医の視点～

2018.11.10 第14回熊本大学大学院消化器外科学講座開講記念会（熊本）
武富紹信
内視鏡外科技術認定医の育成～北大消化器外科Ⅰの取り組み～

2018.11.10 第2回北海道膵臓胆道研究会（札幌）
高橋直規、蒲池浩文、折茂達也、長津明久、島田慎吾、横尾英樹、神山俊哉、武富紹信
亜全胃温存膵頭十二指腸切除後に発症した腸管囊腫様気腫症の一例

2018.11.11-12 第72回手術手技研究会（徳島）
河北一誠、本多昌平、宮城久之、荒桃子、後藤一、嶋村剛、神山俊哉、武富紹信
先天性門脈体循環シャント血管結紮術の治療成績

市川伸樹、本間重紀、吉田雅、大野陽介、川村秀樹、武富紹信
腹腔鏡下大腸切除における技術認定の位置付け

島田慎吾、神山俊哉、横尾英樹、折茂達也、長津明久、大畑多嘉宜、蒲池浩文、武富紹信
肝巨大血管腫に対する安全な切除のための術前評価の工夫

2018.11.14 第25回苫小牧外科談話会（苫小牧）
武富紹信
新規分子標的薬時代の肝がん外科治療

2018.11.14-16 第60回日本小児血液がん学会（京都）
本多昌平、菱木知郎、横井暁子、風間理郎、高間勇一、星野健、田口智章、檜山英三
肝腫瘍に対するinitial surgical interventionに関する最近の話題

2018.11.16 第2回札幌外科漢方セミナー（札幌）
荒桃子、本多昌平、河北一誠、武富紹信
小児便秘治療における漢方薬の役割

2018.11.16-17 第29回日本消化器癌発生学会（東京）
藤好直、本多昌平、湊雅嗣、荒桃子、河北一誠、鈴木拓、檜山英三、武富紹信
肝芽腫におけるシスプラチン耐性に関わるDNAメチル化異常の検討

2018.11.21 第12回肝臓内視鏡外科研究会（東京）
長津明久、神山俊哉、大畑多嘉宜、島田慎吾、折茂達也、横尾英樹、蒲池浩文、武富紹信
当科におけるHarmonic HD1000iを用いた肝実質切離法とその試み

2018.11.22-24 第80回日本臨床外科学会（東京）
蒲池浩文、折茂達也、長津明久、島田慎吾、横尾英樹、後藤一、神山俊哉、武富紹信
大量肝切除を要する肝門部領域胆道系腫瘍における血行再建

横尾英樹、神山俊哉、折茂達也、島田慎吾、長津明久、蒲池浩文、武富紹信
大腸癌肝転移における術前化学療法の治療成績に与えるインパクト

長津明久、神山俊哉、大畑多嘉宜、島田慎吾、折茂達也、横尾英樹、蒲池浩文、武富紹信
高齢者肝切除症例に対するE-PASSを用いたリスク評価

市川伸樹、本間重紀、吉田雅、大野陽介、川村秀樹、石川倫啓、江本慎、小笠原和宏、中西一彰、敦井啓蔵、上泉洋、武富紹信
切除不能転移性大腸癌における 原発巣切除の意義の検討

折茂達也、神山俊哉、横尾英樹、島田慎吾、長津明久、大畑多嘉宜、蒲池浩文、武富紹信
肝細胞癌に対する肝切除症例の肝予備能評価

島田慎吾、神山俊哉、横尾英樹、折茂達也、長津明久、蒲池浩文、武富紹信
80歳以上の高齢者肝細胞癌に対する肝切除の成績と予後因子

吉田雅、本間重紀、川俣太、市川伸樹、柴崎晋、川村秀樹、武富紹信
腹腔鏡下低位前方切除におけるカバリング回腸ストマの功罪

2018.11.23 第24回北海道肝移植適応研究会（札幌）
後藤一
当院における門脈狭窄、閉塞例に対する脳死肝移植3例の検討

2018.12.1 第114回日本臨床外科学会北海道支部例会（札幌）
佐藤彩、吉田雅、本間重紀、市川伸樹、川俣太、柴崎晋、武富紹信、福井秀章、松野吉宏
濾胞性リンパ腫を合併した早期横行結腸癌の一切除

高橋直規、神山俊哉、横尾英樹、折茂達也、島田慎吾、長津明久、蒲池浩文、武富紹信
若年男性に発症した巨大肝細胞腫の1切除例

田中大樹、神山俊哉、横尾英樹、折茂達也、島田慎吾、長津明久、大畑多嘉宜、蒲池浩文、三橋智子、加藤徳雄、武富紹信
肝内胆管癌術後再発に対し陽子線治療を行い 無再発で長期経過している一例

南波宏征、吉田雅、川俣太、市川伸樹、柴崎晋、本間重紀、川村秀樹、武富紹信
術前診断に苦慮した回盲部炎症性偽腫瘍の1例

2018.12.6-8 第31回日本内視鏡外科学会総会（福岡）
吉田雅、本間重紀、川俣太、市川伸樹、柴崎晋、川村秀樹、武富紹信

抗血小板・抗凝薬服用症例に対する腹腔鏡下大腸切除術

長津明久、島田慎吾、折茂達也、横尾英樹、蒲池浩文、神山俊哉、武富紹信
Harmonic HD1000iを用いた腹腔鏡下肝切除の試み

市川伸樹、本間重紀、吉田雅、川俣太、柴崎晋、川村秀樹、武富紹信
腹腔鏡下低位前方切除において狭骨盤が手術操作に与える影響に関する検討

谷道夫、寺崎康展、大島由佳、斎藤健太郎、上坂貴洋、片山知也、大島隆宏
移植腎周囲の膿瘍形成をとなす盲腸憩室炎に対し腹腔鏡下右半結腸切除を施行した一例

柴崎晋、須田康一、瀧口修司、木下敬弘、内藤剛、小濱和貴、吉田雅博、宇山一朗
胃領域における内視鏡外科診療ガイドライン作成の現況

2018.12.10 第47回日本免疫学術集会（福岡）
Fukasaku Y, Goto R
Novel immune monitoring assay by minimizing the influence of immunosuppressants for living donor liver recipients by using humanized mouse model

2018.12.13 第9回東京周術期管理講演会（東京）
武富紹信
消化器外科領域における静脈血栓症管理

《学会発表（国際）》
2018.1.18-20 American Society of Clinical Oncology - Gastrointestinal Cancer Symposium (ASCO GI) 2018 (Sun Francisco, CA)
Wakayama K, Kamiyama T, Yokoo H, Orimo T, Shimada S, Nagatsu A, Kamachi H, Taketomi A.
Surgical treatment of hepatocellular carcinoma with advanced portal vein tumor thrombus combined with pre-operative radiotherapy.

2018.2.24-25 18th Korea-Japan hepatitis meeting: Scientific Program (Incheon, South Korea)
Sakamoto Y, Kamiyama T, Yokoo H, Doi H, Taketomi A, Kanto T
The impact of comorbid renal insufficiency in patients with hepatocellular carcinoma on long-term outcomes after the curative resection: A single center study on 800cases.

2018.4.11-14 Society of American Gastrointestinal and Endoscopic Surgeons (SAGES) 2018 Annual Meeting. (Seattle, WA.)
Chira M, Yanagida N, Kato K, Gochi M, Kondo T, Yamada K, Funakoshi T, Inagaki M, Akabane H and Nakano S.
Impact of the first assistant in laparoscopic distal gastrectomy.

2018.4.11-14 Society of American Gastrointestinal and Endoscopic Surgeons (SAGES) 2018 Annual Meeting. (Seattle, WA.)
Yoshida T, Homma S, Ohno Y, Ichikawa N, Kawamura H, Taketomi A.

Impact of past history of abdominal operation in laparoscopic colorectal surgery.

2018.5.13-17 The 51th Pacific Association of Pediatric Surgeons (PAPS) (Sapporo, Japan)
Kawakita I, Honda S, Miyagi H, Ara M, Okumura K, Taketomi A.
A rare case of persistent urogenital sinus associated with sacrococcygeal teratoma.

Miyagi H, Honda S, Momoko W, Ara MW, Minato M, Kawakita I, Okumura K, Taketomi A.
Comparison of surveillance cultures of the umbilical skin between patients who underwent laparoscopic percutaneous extraperitoneal closure (LPEC) and those receiving umbilical hernia (UH) repair.

Honda S, Fujiyoshi S, Minato M, Miyagi H, Ara M, Kawakita I, Okumura K, Hiwama E, Taketomi A.
Aberrant DNA methylation related to chemoresistance in hepatoblastomas.

2018.5.30-6.1 26th International Congress of the European Association for Endoscopic Surgery (London, UK)
Kawamura H, Yoshida T, Shibasaki S, Shimokuni T, Sakihama H, Homma S, Takahashi M, Taketomi A.
The operative results of one hundred cases of dual-port gastrectomy for gastric cancer.

2018.6.2 The 64th Annual Congress of International College of Surgeons Japan Section (Nagasaki, Japan)
Nagatsu A, Kamiyama T, Shimada S, Wakayama K, Orimo T, Yokoo H, Kamachi H, Taketomi A.
Laparoscopic hepatectomy for patients with alveolar echinococcosis: a single-center experience.

2018.6.6-8 9th Asia-Pacific Primary Liver Cancer Expert Meeting (APPLE 2018) (Seoul, South Korea)
Nagatsu A, Kamiyama T, Ohata T, Shimada S, Wakayama K, Orimo T, Yokoo H, Kamachi H, Taketomi A.
Advanced intrahepatic cholangiocarcinoma with long-term survival: a case report.

2018.6.30-7.5 27th international congress of the transplantation society (Madrid, Spain)
Goto R, Zaitis M, Nagatsu A, Emoto S, Fukasaku Y, Ganchiku Y, Watanabe M, Oura T, Ota M, Suzuki T, Shimamura T, Taketomi A, Todo S, Yamashita K.
The immune monitoring for operationally tolerant recipients following a regulatory T cell-based cell therapy.

2018.8.24-28 The 10th Japanese-Mongolian Joint International Symposium on Digestive Disease. (Ulaanbaatar, Mongolia.)
Akinobu Taketomi.
Living donor liver transplantation for hepatocellular carcinoma in Japan.

Nagatsu A, Kamiyama T, Ohata T, Shimada S, Wakayama K, Orimo T, Yokoo H, Kamachi H, Taketomi A.

Simultaneous resection for colorectal carcinoma with synchronous liver metastasis after neoadjuvant chemotherapy.

fatty liver disease

Kawakita I, Honda S, Ara M, Watanabe M, Taketomi A. Pediatric liver transplantation for unresectable hepatoblastoma: Report of a case and review of the literature.

2018.9.4-7 13th International Hepato-Pancreato-Biliary Association (IHPBA) World Congress (Geneva, Switzerland)

Kamiyama T, Yokoo H, Orimo T, Shimada S, Nagatsu A, Kamachi H, Shimamura T, Taketomi A. Surgica Benefit of Hepatectomy for Huge Alveolar Echinococcosis Followed by Chemotherapy

2018.9.26-28 European Society of Coloproctology 13th Scientific and Annual meeting (Nice, France)

Kii S, Kitamura H, Okada N, Sugiyama K, Xiang H, Kawamata F, Ohno Y, Ichikawa N, Yoshida T, Homma S, Kawamura H, Takahashi N, Taketomi A. STAT1 signal pathway is associated with inflammatory bowel disease.

Ichikawa N, Homma S, Yoshida T, Mitsuhashi T, Iijima H, Ogasawara K, Kazui K, Kamizumi Y, Ohno Y, Kawamata F, Shibasaki S, Kawamura H, Taketomi A. Increase of peripheral lymphocyte-monocyte ratio after the primary site resections related with the prolonged survival in unresectable colorectal carcinoma

2018.10.5 The 12th Japan Korea Transplantation Forum (Tokyo, Japan)

Goto R, Zaitu M, Kawamura N, Watanabe M, Kamiyama T, Shimamura T, Taketomi A. The impact of preformed donor-specific antibodies in living donor liver transplantation depending on graft volume.

2018.10.5-7 The 25th International Meeting of the Paediatric Colorectal Club (PCC25) (Tokyo, Japan)

Miyagi H, Miyamoto K, Hirasawa M, Ishii D. Results of Kimura's procedure (Right Colon Patch) for Extensive Aganglionosis.

2018.11.19-21 SIOPEL meeting 2018 (Hiroshima, Japan)

Honda S, Hiyama E, Fujiyoshi S, Minato M, Hishiki T, Watanabe K, Ida K, Hoshino K, lehara T, Aoki Y, Kazama T, Kihira K, Takama Y, Taguchi T, Fujimura J, Matsumoto K, Mori M, Yano M, Yokoi A, Tanaka Y, Fujii H, Miyazaki O, Yoshimura K, Takimoto T, Taketomi A. Molecular study in JPLT studies.

2018.11.9-13 American Association for the Study of Liver Diseases (AASLD) The LIVER MEETING 2018. (Sun Francisco, CA)

Sakamoto Y, Yoshio S, Kawai H, Shimagaki T, Doi H, Aoki Y, Osawa Y, Taketomi A, Kanto T. Soluble Siglec-7 as a diagnostic biomarker for hepatocellular carcinoma in patients with non-alcoholic

2018年論文一覧

《論文発表》 (和文)

武富紹信：今こそ地域医療を考える。都市と地方の外科医療と外科教育の格差を解消するには。北海道における外科教育の取り組み(解説) 日本外科学会雑誌 (0301-4894)119巻1号 Page89-91

市川伸樹、本間重紀、吉田雅、大野陽介、川村秀樹、上泉洋、飯島弘章、武富紹信：腹腔鏡下大腸切除において技術認定取得者による指導は初級術者による安全な手術と技術習得に貢献する(Publication Report) 北海道外科雑誌2017年第62巻第2号 Page44

市川伸樹、本間重紀、吉田雅、大野陽介、川村秀樹、上泉洋、飯島弘章、武富紹信：腹腔鏡下大腸切除において技術認定取得者による指導は初級術者による安全な手術と技術習得に貢献する(best article of the year) 北海道医学雑誌2018年第93巻第1号 Page33

市村健太郎、三野和宏、矢部沙織、加藤拓也、太田拓児、志智俊介、植村一仁、畑中佳奈子、松野吉宏、高橋宏明：腸結核による回盲部狭窄に対し腹腔鏡下回盲部切除を行った2例 北海道外科雑誌2018年63巻1号 Page49-54

岡田忠雄、山田玲子、本多昌平、宮城久之、荒桃子、湊雅嗣、武富紹信：【膈ヘルニア手術と圧迫】アンケートからみた美しい臍小児外科 2018年50巻4号 Page324-331

折茂達也、神山俊哉、横尾英樹、若山顕治、島田慎吾、長津明久、蒲池浩文、武富紹信：【腹膜と腹水を究める-新しい考え方と治療法】肝切除後腹水の病態と対策 外科 2018年80巻6号 Page609-613

折茂達也、神山俊哉、横尾英樹、若山顕治、島田慎吾、長津明久、蒲池浩文、武富紹信：【エビデンスからみた治療リスクの評価】肝癌治療におけるリスクと対応 手術リスクに応じた術後合併症予防対策 外科80巻10号 Page1027-1030

金沢亮、石川隆壽、横山良司、西川眞、井川義英、塩崎正樹：当院でのテレパノロジーによる術中迅速病理診断の成績 日本外科学会誌2018年第43巻2号 Page170-174

上床貴代、早瀬英子、加畑馨、橋本太吾、伊藤誠、魚住諒、林泰弘、杉田純一、腰塚靖之、後藤一、渡邊千秋、秋沢宏次、豊嶋崇徳、嶋村剛、清水力：脳死肝移植時のフィブリノーゲン製剤導入による術中出血量と輸血使用量の変化に関する検討 日本輸血細胞治療学会誌2018年64巻5号 Page641-648

川村秀樹：胃癌の周術期管理—クリニカルパス— 北海道外科雑誌2017年第62巻第1号 Page39-42

川村秀樹：北海道における腹腔鏡下手術の現状と今後の展望 日本外科学会誌2018年42巻3号 Page305-308

木井修平、廣瀬邦弘、花本尊之、高橋周作：術前超音波ガイド下生検が術式縮小に有用であった膵癌肺転移の1例 日本臨床外科学会雑誌2018年79巻1号 Page72-78

木井修平、廣瀬邦弘、山田健司、花本尊之、高橋周作、鈴木昭：微小浸潤を伴う男性嚢胞内乳癌の1例 日本臨床外科学会雑誌2018年79巻4号 Page692-696

坂本譲、砂原正男、加藤純一、大野陽介、植木伸也、木村純：胆嚢動脈瘤破裂に対して緊急動脈造影術後に待機的胆嚢摘出術を

施行した1例 日本外科学会誌2018年43巻4号 Page726-733

柴崎晋、中内雅也、菊地健司、角谷慎一、稲葉一樹、宇山一朗：「特集」高齢者における外科治療の意義と限界。臨床に役立つQ&A。1. 上部消化管のハイリスクにおける外科の考え方について教えて下さい。 Geriatr. Med. 2018年 56巻4号 Page 357-360

柴崎晋、中内雅也、角谷慎一、菊地健司、稲葉一樹、宇山一朗：安全かつ高再現性を目指したoutermost layerに基づいた幽門下リンパ節部清手技。手術2018年 72巻6号 Page907-916

島田慎吾、柴田賢吾、小林希、深井原、嶋村剛、武富紹信：脂肪肝、虚血再灌流障害をターゲットとしたAMPKの役割 Organ Biology 2018年25巻2号 Page134-139

杉山昂、神山俊哉、大村卓味、長津明久、島田慎吾、永生高広、若山顕治、折茂達也、横尾英樹、蒲池浩文、武富紹信：放射線化学療法が奏効しConversionし得た局所進行肝内胆管癌の1例 癌と化学療法 2018年45巻4号 Page664-666

杉山昂、神山俊哉、大村卓味、長津明久、島田慎吾、永生高広、若山顕治、折茂達也、横尾英樹、蒲池浩文、武富紹信：放射線療法併用肝動注化学療法が奏効しConversion Surgeryし得た局所進行肝内胆管癌の1例 癌と化学療法 2018年45巻4号 Page664-666

沢田亮史、本間重紀、吉田雅、柴崎晋、川村秀樹、若山顕治、柿坂達彦、横尾英樹、神山俊哉、小松嘉人、結城颯志、畑中佳奈子、武富紹信：XELOX + bevacizumab療法が奏効しR0切除が得られたAFP産生大腸癌同時性肝転移の1例 日本外科学会誌2018年第43巻5号 Page845-854

谷道夫、西川眞、長津明久、高橋徹、石川隆壽、寺崎康展：ENBD逸脱による空腸先行に対し、消化管内視鏡併用腹腔鏡手術により治療した1例 日本内視鏡外科学会雑誌 2018年23巻5号 Page617-621

豊島雄二郎、大谷嘉己、岡田尚樹、正村裕紀：今日の臨床 女性自然気胸手術例における臨床的特徴—男性例との比較— 検討 胸部外科2018年71巻6号 Page403-406

中本裕紀、横山良司、西川眞、武富紹信：10歳女児の穿孔性虫垂炎術後に発生した右鼠径ヘルニア嚢腫瘍の1例日本臨床外科学会誌 2018年79巻5号 Page1111-1116

渡辺正明、武富紹信：膵島移植の現状と膵島グラフト長期生着のための治療戦略-我々のこれまでの取り組みとこれから-北海道外科雑誌2017年62巻2号 Page 8-16

(英文)

Asahi Y, Honda S, Okada T, Miyagi H, Kaneda M, Iguchi A, Kaga K, Taketomi A. Usefulness of Plain Computed Tomography with Swallowing of Gastrografin™ for the Diagnosis of a Late-Onset Iatrogenic Diaphragmatic Hernia following Biopsy of a Diaphragmatic Tumor: Report of a Case. Case Rep Gastroenterol. 2018 Jun 15;12(2):271-276. doi: 10.1159/000489294. eCollection 2018 May-Aug.

Einama T, Kamachi H, Tsuruya Y, Sakata T, Shibuya K, Sakamoto Y, Shimada S, Wakayama K, Orimo T, Yokoo H, Kamiyama T, Katoh N, Uchinami Y, Mitsuhashi T, Taketomi A. Optimal resection area for superior mesenteric artery nerve plexuses after neoadjuvant chemoradiotherapy for locally advanced pancreatic

carcinoma. *Medicine (Baltimore)* 2018; 97(31): e11309

Einama T, Kamachi H, Sakata T, Shibata K, Wakizaka K, Sugiyama K, Shibuya K, Shimada S, Wakayama K, Orimo T, Yokoo H, Kamiyama T, Mitsuhashi T, Taketomi A. Curative resection of pancreatic ductal adenocarcinoma developing in the remnant pancreas 13 years after distal pancreatectomy for intraductal papillary mucinous neoplasms: A case report. *Mol Clin Oncol.* 2018 Mar;8(3):417-420. doi:10.3892/mco.2018.1556. Epub 2018 Jan 16.

Ichikawa N, Homma S, Yoshida T, Ohno Y, Kawamura H, Kamiizumi Y, Iijima H, Taketomi A. Supervision by a technically qualified surgeon affects the proficiency and safety of laparoscopic colectomy performed by novice surgeons. *Surg Endosc.* 2018 Jan;32(1):436-442.

Ishikawa T, Homma S, Nishikawa M, Nakamoto H, Yokoyama R, Taketomi A. Laparoscopic abdominoperineal resection with lateral lymph node dissection for advanced rectal and prostate cancer with synchronous lateral lymph node metastases. *Asian J Endosc Surg.* 2018 May 10. doi: 10.1111/ases.12598. [Epub ahead of print]

Ishikawa T, Nishikawa M, Nakamoto H, Yokoyama R, Taketomi A. Case of chronic pain after laparoscopic percutaneous extraperitoneal closure in an adolescent girl with inguinal hernia in which open repair was effective. *Asian J Endosc Surg.* 2018 Jun 28. doi: 10.1111/ases.12618. [Epub ahead of print]

Ishikawa T, Shimada S, Fukai M, Kimura T, Uemoto K, Shibata K, Fujiyoshi M, Fujiyoshi S, Hayasaka T, Kawamura N, Kobayashi N, Shimamura T, Taketomi A. Post-reperfusion hydrogen gas treatment ameliorates ischemia reperfusion injury in rat livers from donors after cardiac death: a preliminary study. *Surg Today.* 2018 Dec;48(12):1081-1088.

Kamachi H, Tsuruga Y, Orimo T, Wakayama K, Shimada S, Nagatsu A, Yokoo H, Kamiyama T, Katoh N, Taketomi A. R0 Resection for Locally Advanced Pancreatic Cancer with Low-dose Gemcitabine with Wide Irradiation Area as Neoadjuvant Chemoradiotherapy. *In Vivo.* 2018 Sep-Oct;32(5):1183-1191. doi: 10.21873/invivo.11362.

Kamiyama T, Kakisaka T, Orimo T, Wakayama K. Hepatectomy for hepatocellular carcinoma with portal vein tumor thrombus. *World J Hepatol.* 2017 Dec 28;9(36):1296-1304. doi: 10.4254/wjh.v9.i36.1296. Review.

Kawamata F, Nishihara H, Homma S, Kato Y, Tsuda M, Konishi Y, Wang L, Kohsaka S, Liu C, Yoshida T, Tanino M, Tanaka S, Kawamura H, Kamiyama T, Taketomi A. Chorionic Gonadotropin- β Modulates Epithelial-Mesenchymal Transition in Colorectal Carcinoma Metastasis. *Am J Pathol.* 2018 Jan;188(1):204-215.

Konishi Y, Kawamata F, Nishihara H, Homma S, Kato Y, Tsuda M, Kohsaka S, Einama T, Liu C, Yoshida T, Nagatsu A, Tanino M, Tanaka S, Kawamura H, Kamiyama T, Taketomi A. Tumor budding and human chorionic gonadotropin- β expression correlate with unfavorable patient outcome in colorectal carcinoma. *Med Oncol.*

2018 Jun;35(7):104

Matsui H, Einama T, Shichi S, Kanazawa R, Shibuya K, Suzuki T, Matsuzawa F, Hashimoto T, Homma S, Yamamoto J, Taketomi A, Abe H. L-Carnitine supplementation reduces the general fatigue of cancer patients during chemotherapy. *Mol Clin Oncol.* 2018 Mar;8(3):413-416.

Miyagi H, Honda S, Hamada H, Minato M, Ara MW, Taketomi A. One-stage laparoscopic surgery for pulmonary sequestration and hiatal hernia in a 2-year-old girl. *European J Pediatr Surg Rep.* 2018 Jan;6(1):e11-e14.

Mizukami T, Kamachi H, Fujii Y, Matsuzawa F, Einama T, Kawamata F, Kobayashi N, Hatanaka Y, Taketomi A. The anti-mesothelin monoclonal antibody amatuximab enhances the anti-tumor effect of gemcitabine against mesothelin-high expressing pancreatic cancer cells in a peritoneal metastasis mouse model. *Oncotarget.* 2018 Sep 18;9(73):33844-33852

Mizukami T, Kamachi H, Mitsuhashi T, Einama T, Hatanaka Y, Kamiyama T, Taketomi A. Cytoplasmic CD133 expression correlates with histologic differentiation and is a significant prognostic factor in extrahepatic bile duct cancer and gallbladder cancer. *Oncology Letters.* 2018 (in press).

Nakamoto H, Nishikawa M, Ishikawa T, Yokoyama R, Taketomi A. Endoscopic Retrograde Cholangiopancreatography (ERCP) with Laparoscopic Small-Intestinal Incision Approach for Extraction of a Common Bile Duct (CBD) Stone Following Total Gastrectomy and Roux-en-Y (R-Y) Anastomosis: A Case Report. *Am J Case Rep.* 2018 Oct 3;19:1175-1178.

Ohira M, Shibuya K, Uemura K, Takahashi H, Ito Y. Correlation between port-to-target distance and procedural difficulty in single-incision laparoscopic cholecystectomy: An observational study. *Asian J Endosc Surg.* 2018 Sep 26. doi: 10.1111/ases.12652. [Epub ahead of print]

Orimo T, Kamiyama T, Mitsuhashi T, Kamachi H, Yokoo H, Wakayama K, Shimada S, Nagatsu A, Taketomi A. Impact of tumor localization on the outcomes of surgery for an intrahepatic cholangiocarcinoma. *J Gastroenterol.* 2018 Nov;53(11):1206-1215

Orimo T, Kamiyama T, Yokoo H, Wakayama K, Shimada S, Einama T, Kamachi H, Taketomi A. Salvage Hepatectomy for Recurrent Hepatocellular Carcinoma after Radiofrequency Ablation and/or Transcatheter Arterial Chemoembolization: A Propensity Score-Matched Analysis. *Dig Surg.* 2018;35(5):427-434.

Sakamoto Y, Kamiyama T, Yokoo H, Shimada S, Einama T, Wakayama K, Orimo T, Kamachi H, Naka T, Mitsuhashi T, Taketomi A. Hepatocellular carcinoma producing granulocyte-colony stimulating factor: diagnosis and treatment. *International Cancer Conference Journal (In press)*

Shibasaki S, Suda K, Nakauchi M, Nakamura T, Kadoya S, Kikuchi K, Inaba K, Uyama I. Outermost layer-oriented

medial approach for infrapyloric nodal dissection in laparoscopic distal gastrectomy. *Surg Endosc* 2018 Apr; 32(4): 2137-2148.

Shibasaki S, Suda K, Uyama I. Replacement of laparoscopic total gastrectomy with laparoscopic proximal gastrectomy for upper early gastric cancer (Editorial). *Ann Laparosc Endosc Surg* 2018;3: 1-4.

Shibata K, Kawamura H, Ichikawa N, Shibuya K, Yoshida T, Ohno Y, Homma S, Taketomi A. Laparoscopic total gastrectomy for advanced gastric cancer in a patient with situs inversus totalis. *Asian J Endosc Surg.* 2018 Feb;11(1):39-42.

Shibuya K, Kamachi H, Orimo T, Nagatsu A, Shimada S, Wakayama K, Yokoo H, Kamiyama T, Taketomi A. Pancreaticoduodenectomy with preservation of collateral circulation or revascularization for biliary-pancreatic cancer with celiac axis occlusion: report of 2 cases. *Am J Case Rep.* 2018 Apr 9;19:413-420.

Shibuya K, Homma S, Yoshida T, Ohno Y, Ichikawa N, Kawamura H, Imamoto T, Matsuno Y, Taketomi A. Carcinoma in the residual rectum of a long-standing Crohn's disease patient following subtotal colectomy: A case report. *Mol Clin Oncol* 2018; Jul;9(1):50-53 doi: 10.3892/mco.2018.1626. Epub 2018 May 14

Shichi S, Einama T, Suzuki M, Matsui H, Kanazawa R, Shibuya K, Suzuki T, Matsuzawa F, Nakachi K, Hashimoto T, Kondo N, Abe H, Taketomi A. Rare case of idiopathic sclerosing cholangitis, which was difficult to distinguish from cholangiocarcinoma: A case report. *Exp Ther Med.* 2018 Dec;16(6):5224-5226.

Shimada S, Kamiyama T, Yokoo H, Orimo T, Nagatsu A, Ohata T, Kamachi H, Taketomi A. Prognoses and Clinicopathological Characteristics for Hepatocellular Carcinoma Originating from the Caudate Lobe After Surgery. *World J Surg.* 2018; doi: 10.1007/s00268-018-4869-2. [Epub ahead of print]

Wakizaka K, Yokoo H, Kamiyama T, Ohira M, Kato K, Fujii Y, Sugiyama K, Okada N, Ohata T, Nagatsu A, Shimada S, Orimo T, Kamachi H, Taketomi A. Clinical and pathological features of combined hepatocellular-cholangiocarcinoma compared with other liver cancers. *J Gastroenterol Hepatol.* 2018 Nov 21. doi: 10.1111/jgh.14547.

Watanabe M, Kumagai-Braesch MB, Yao MH, Thunberg S, Berglund D, Sellberg F, Jorns C, Enoksson SL, Henriksson J, Lundgren T, Berglund E, Ericzon BG. Ex-vivo generation of donor antigen-specific immunomodulatory cells: a comparison study of anti-CD80/86 mAbs and CTLA4-ig costimulatory blockade Cell Transplantation. 2018 Sep27;963689718794642. doi:10.1177/0963689718794642

Yoshida T, Homma S, Ohno Y, Ichikawa N, Kawamura H, Sato R, Ohta Y, Imamoto T, Matsuno Y, Taketomi A. Laparoscopic surgery for the treatment of mesenteric phleboclerosis. *Am surg.* In press.

研究費一覧

種別	事業名	研究代表者	研究分担者	交付額 (分担金配分額)	研究課題名
科研費	基礎研究 (B)	武富 紹信		4,300,000	炎症性腸疾患における神経ペプチドシグナルの制御機構解明と疾患治療への応用
	挑戦的研究 (萌芽)	武富 紹信		2,900,000	化学療法抵抗性獲得機序におけるDKGα高発現の意義の解明とその制御法の開発研究
	基礎研究 (S)	(前原 喜彦) 武富 紹信		(300,000)	がん幹細胞化に関与するSphere形成メカニズムを標的とした革新的治療開発
	基礎研究 (C)	神山 俊哉		1,100,000	肝癌細胞株における糖鎖異常と浸潤能との関連性の解析
	基礎研究 (B)	嶋村 剛		3,000,000	脂肪肝グラフトのミトコンドリア機能と抗酸化能を増強する画期的な肝体外灌流法の開発
	基礎研究 (C)	本間 重紀		1,400,000	全ゲノム解析とCRISPR/Cas9を応用した大腸癌肝転移に対する新規治療戦略
	基礎研究 (C)	渡辺 正明		1,500,000	膵島移植における長期グラフト生着のための治療法の開発
	基礎研究 (C)	折茂 達也		1,400,000	APC結合タンパクEB1による膵癌の放射線抵抗性の画期的診断とその分子機構の解明
	基礎研究 (C)	深井 原		1,500,000	14-3-3とNrf2の制御による革新的な心停止腎グラフトの灌流修復法の開発
	基礎研究 (B)	(三高 俊広) 深井 原		(100,000)	新生肝細胞創出による機能不全に陥った肝臓を蘇らせるための基礎的研究
	基礎研究 (C)	後藤 了一		900,000	ヒト血管移植片に対する抗ドナー抗体の病的意義と免疫抑制性細胞による治療効果の検討
	基礎研究 (C)	本多 昌平		1,500,000	肝細胞癌との共通メカニズムに基づく肝芽腫の新規分子診断・治療開発
	基礎研究 (A)	(檜山 英三) 本多 昌平		(250,000)	小児がん研究グループによる小児肝がんの海外診療状況調査と国際共同臨床研究基盤整備
	基礎研究 (C)	(宮城 久之) 本多 昌平		(80,000)	組織立体再構築を用いた直腸肛門奇形発生のエピゲノム解析
	基礎研究 (C)	高橋 典彦		1,100,000	IL-6による免疫抑制を介した大腸がん肝転移機構の解明と新規治療法開発
	挑戦的萌芽	砂原 正男		500,000	肝芽腫局所進展に関わるドライバージェノム変異の解明
	若手研究 (B)	大野 陽介		900,000	大腸がん微環境下における抗原提示細胞の機能制御を基軸とした新規治療法の開発
	若手研究	吉田 雅		1,000,000	炎症性腸疾患活動性関連因子に関する基礎的研究
	若手研究	市川 伸樹		1,000,000	転移性大腸癌における原発巣切除による免疫状態変化と予後に関する検討
	若手研究	荒 桃子		1,300,000	CDDP耐性肝芽腫におけるメチル化異常の解明と新規治療法の探求
基礎研究 (C)	(宮城 久之) 荒 桃子		(80,000)	組織立体再構築を用いた直腸肛門奇形発生のエピゲノム解析	
若手研究 (B)	島田 慎吾		600,000	脂肪切除後の分子病態解明と抗酸化能増強による易障害性・易転移性克服法の開発	
若手研究 (B)	財津 雅昭	延長		慢性拒絶反応における血管平滑筋細胞に対する制御性T細胞の効果の検討	
研究活動スタート支援	川俣 太		1,200,000	全ゲノム解析を用いた大腸癌肝転移のゲノム進化の解明	
AMED・厚労科研	日本医療研究開発機構 感染症実用化研究事業 肝炎等克服実用化研究事業ⅱ	(溝上 雅史) 武富 紹信		(7,800,000)	個別化医療に対応したゲノム編集技術による肝臓内HBVゲノムの完全不活化を目指した革新的治療法の包括的開発
	日本医療研究開発機構 感染症実用化研究事業 肝炎等克服実用化研究事業ⅰ	(考藤 達哉) 武富 紹信		(3,900,000)	NASH肝がんのリビド・ゲノミクス研究に基づく個別化医療の開発
	日本医療研究開発機構 感染症実用化研究事業 肝炎等克服実用化研究事業ⅰ	(坂本 直哉) 武富 紹信		(1,740,000)	慢性肝疾患の組織病態進展機構の解析および血清組織糖鎖の網羅的探索による予後予測マーカーの構築
	日本医療研究開発機構 感染症実用化研究事業 肝炎等克服実用化研究事業ⅰ	(松浦 善治) 武富 紹信		(1,750,000)	C型肝炎における慢性肝炎から発がんに至るまでの病態解明とその制御に関する研究
	日本医療研究開発機構 感染症実用化研究事業 肝炎等克服実用化研究事業ⅰ	(前原 喜彦) 武富 紹信		(300,000)	多施設共同研究による移植後肝炎ウイルス再発に対する標準的治療の確立
	厚生労働行政推進調査事業費補助金 エイ対策政策研究事業	(江口 晋) 嶋村 剛		(500,000)	血液製剤によるHIV/HCV重複感染患者の肝移植に関する研究
	その他	上原記念生命科学財団	武富 紹信		5,000,000
公益信託	榎刀会外科医学研究助成基金	浦池 浩文		500,000	膵癌細胞接着阻害による癌幹細胞特性のコントロールと新規抗腫瘍療法開発
公益信託	榎刀会外科医学研究助成基金	後藤 了一		500,000	肝移植後抗HLA抗体の移植グラフトへの影響
公益信託	榎刀会外科医学研究助成基金	大野 陽介		300,000	大腸癌における抗腫瘍免疫応答バイオマーカーの探索

2018年業績紹介

〈学位取得者〉

■ 学位取得者（博士）

江本 慎



■ 学位取得年月
2018年3月

■ 学位論文名
新規化合物“NK026680”とDonor specific transfusionの併用による免疫抑制効果

■ 基礎論文
Triazolopyrimidine Derivative, NK026680, and Donor-Specific Transfusion Induces CD4+CD25+Foxp3+ T Cells and Ameliorates Allograft Rejection in an Antigen-Specific Manner (投稿中)

■ 要 旨

【背景と目的】

Donor-specific transfusion (DST) は、さまざまな免疫抑制剤と併用され、免疫抑制作用を發揮する。本研究の目的は、新規化合物NK026680とDSTの併用による免疫抑制作用を調べ、その機序を明らかにすることである。

【材料と方法】

レシビエントにC57BL/6、ドナーにBALB/cを使用した。移植の7日前（day -7）にドナーの脾細胞 20×10^6 個を静注した（DST）。NK026680は40 mg/kg/日でday -7～day 6に経口投与した。グラフトに心臓を用い、レシビエントの腹腔内に移植した。無治療群、DST単独治療群（DST群）、NK026680単剤投与群（NK群）、DSTとNK026680の併用群（NK+DST群）の4群で移植心着生期間を評価した。

【結果】

無治療群ではドナー移植心は7日以内に全例拒絶された。DST群、NK群では中央値24.5日、25.5日とグラフト生着期間が有意に延長したが、NK+DST群では、中央値75.5日とグラフト生着期間が著明に延長した。

day 0の脾細胞中のCD4+ CD25+ Foxp3+ T細胞の割合は各群で有意差を認めなかったが、day 0にドナーの脾細胞で再度刺激して翌日回収した脾細胞では、NK+DST群で他群に比べて有意にCD4+ CD25+ Foxp3+ T細胞の割合が増加した。

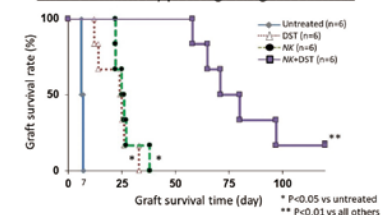
day 7のグラフト中のCD4+ CD25+ Foxp3+ T細胞の細胞数はNK群、NK+DST群で有意に多かった。DST群でグラフト内のCD8+ T細胞の割合、細胞数とも有意に増加した。

抗CD25抗体を投与することで、DSTとNK026680の併用治療を行っても生着期間が有意に短縮した。

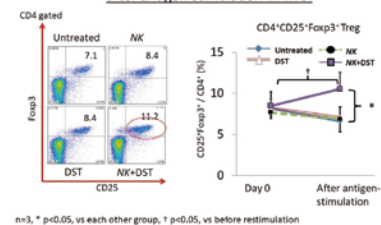
【結語】

DSTとNK026680の併用治療は免疫抑制作用を有し、ドナー抗原特異的CD4+ CD25+ Foxp3+ 制御性T細胞を誘導することでアロ移植心生着延長効果を示した。

NK+DST markedly prolongs allograft survival.

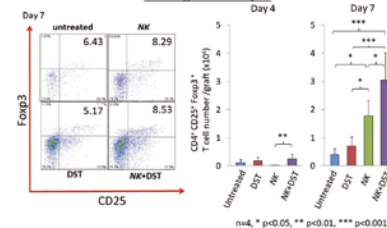


NK+DST increases CD4+CD25+Foxp3+ T cells after antigen stimulation *in vivo*.



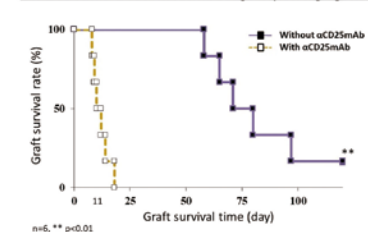
n=3, * p<0.05, vs each other group, † p<0.05, vs before restimulation

NK+DST markedly increases CD4+CD25+Foxp3+ T cell number in the graft on day 7.



n=4, * p<0.05, ** p<0.01, *** p<0.001

Anti-CD25 mAb abolishes NK+DST graft prolonging effect.



n=6, ** p<0.01

■ 学位取得者（博士）

正司 裕隆

■ 学位取得年月
2018年3月



■ 学位論文名

非アルコール性脂肪性肝疾患におけるマクロファージ関連肝線維化バイオマーカーの探索 (Study on the macrophage-related biomarkers for liver fibrosis in patients with non-alcoholic fatty liver disease)

■ 基礎論文

Shoji H, Yoshio S, Mano Y, Kumagai E, Sugiyama M, Korenaga M, Arai T, Itokawa N, Atsukawa M, Aikata H, Hyogo H, Chayama K, Ohashi T, Ito K, Yoneda M, Nozaki Y, Kawaguchi T, Torimura T, Abe M, Hiasa Y, Fukai M, Kamiyama T, Taketomi A, Mizokami M, Kanto T Interleukin-34 as a fibroblast-derived marker of liver fibrosis in patients with non-alcoholic fatty liver disease. Sci Rep. 2016

■ 要旨

【背景】

非アルコール性脂肪性肝疾患(non-alcoholic fatty liver disease; NAFLD)はウイルス性肝疾患と同様に、進行性に肝線維化をきたし発癌リスクを上昇させることが報告されているため、肝線維化の程度(ステージ)を正確に診断することは重要である。マクロファージが肝線維化に関与していることが報告されていることから我々はマクロファージ関連因子がNAFLD患者における肝線維化診断に有用であるかを検討した。

【方法】

- ① 肝生検によって肝線維化のステージ診断が行われた197名と健康者20名を対象として血清サイトカイン/ケモカイン濃度を測定した。
- ② 測定結果から抽出された肝線維化バイオマーカーの線維化診断能を評価するためReceiver operating characteristic (ROC)解析を行った。
- ③ Interleukin-34 (IL-34)の発現細胞を同定するため線維芽細胞株・肝組織切片の免疫染色を行った。

【結果】

- ① 血清IL-34, M-CSF, sCD163, MIP-3 α /CCL20は高度肝線維化群で高値であり、特に血清IL-34は肝線維化の進行とともに上昇した(図1)。
- ② IL-34は優れた肝線維化診断能を有していた(図2)。
- ③ IL-34の主産生細胞は線維芽細胞であった(図3)。

【結論】

NAFLD患者群において線維芽細胞を主産生細胞とする血清IL-34は有用な肝線維化ステージ診断マーカーとなることが示唆された。

図1) 血清IL-34, M-CSF, sCD163, MIP-3 α /CCL20の比較

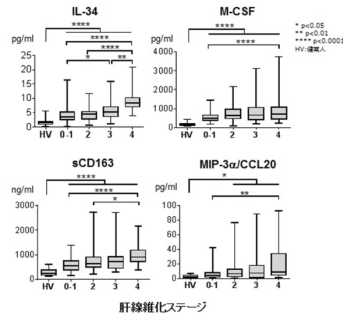


図2) Stage4診断における各バイオマーカーのROC curve

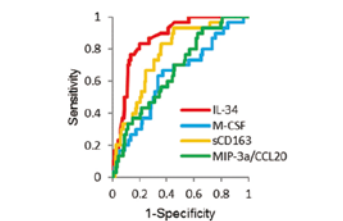
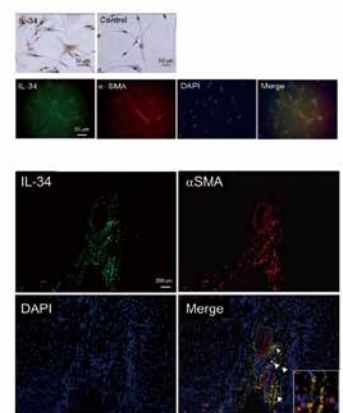


図3) 蛍光免疫染色 (上段: 線維芽細胞株 下段: ヒト肝組織切片)



■ 学位取得者（博士）

小丹枝 裕二

■ 学位取得年月
2018年12月



■ 学位論文名

大腸癌における新規予後予測マーカーとしての簇出とhCG β 発現の意義に関する研究 (Studies on significance of tumor budding and human chorionic gonadotropin- β as a novel prognostic marker in colorectal carcinoma)

■ 基礎論文

Konishi Y, Kawamata F, Nishihara H, Homma S, Kato Y, Tsuda M, Kohsaka S, Einama T, Liu C, Yoshida T, Nagatsu A, Tanino M, Tanaka S, Kawamura H, Kamiyama T, Taketomi A. Tumor budding and human chorionic gonadotropin- β expression correlate with unfavorable patient outcome in colorectal carcinoma. Med Oncol. 2018 Jun 11;35(7):104.

■ 要旨

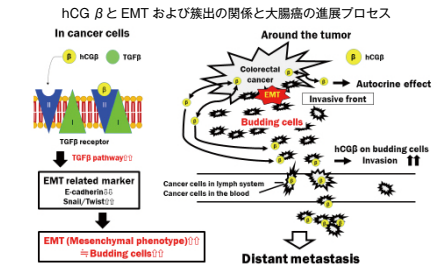
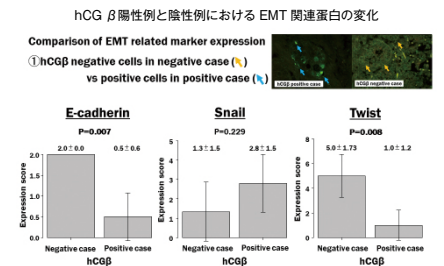
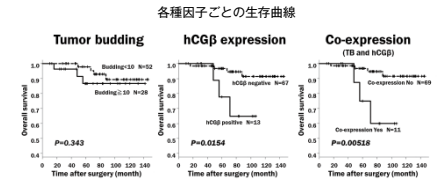
【背景と目的】 簇出はEMTとの関係性から大腸癌の予後予測マーカーとして注目されている。先行研究でhCG β がTGF β pathwayを介して大腸癌のEMTを誘導することを報告した。本研究ではhCG β と簇出およびEMTの関係性を明らかにすることを目的とした。

【対象と方法】 対象は2002～2004年に根治手術を行った大腸癌80例。実験①：簇出とhCG β 発現の評価。簇出はサイトケラチン染色で簇出細胞個数10個以上を陽性と、hCG β は免疫染色で5個以上の陽性細胞を認めるものを陽性とした。実験②：簇出陽性かつhCG β 陽性5例とhCG β 陰性3例で、hCG β とEMT関連蛋白(E-cadherin, Snail, Twist)の蛍光2重免疫染色を行い、先進部癌細胞のEMT関連蛋白の発現強度を比較した。

【結果】 実験①：簇出は28例で、hCG β は13例で陽性だった。簇出はhCG β 発現と相関していた。11例で簇出とhCG β が共発現し、他の群と比較し予後不良であった。多変量解析で共発現は独立した予後不良因子となった。実験②：hCG β 陽性細胞は陰性細胞と比較し、E-cadherinとTwistの減弱と、Snailの増加傾向を認めた。hCG β 陽性例では間質細胞の核のTwist発現が顕著であった。

【考察】 簇出とhCG β が密接に関係し大腸癌の悪性化に寄与していること、hCG β 発現により腫瘍細胞がEMT様の蛋白発現変化を来すことを明らかにした。腫瘍細胞がhCG β を分泌し、TGF β pathwayの活性化を介してEMTが誘導され簇出細胞となり、遠隔転移を形成するというプロセスが推測された。

【結論】 簇出とhCG β は大腸癌における新規予後予測マーカーや治療標的として有用かもしれない。



■ 学位取得者（博士）

石川 隆壽



■ 学位取得年月
2018年12月

■ 学位論文名
ラットの心臓死ドナー肝における水素ガスによる虚血再灌流障害軽減効果に関する研究
(Studies on the effect of amelioration of ischemia reperfusion injury by hydrogen gas in rat livers from donors after cardiac death)

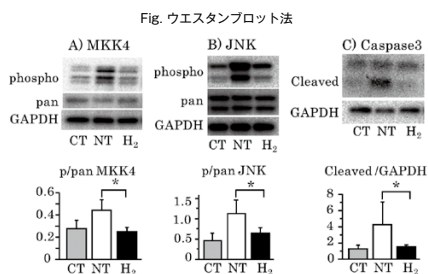
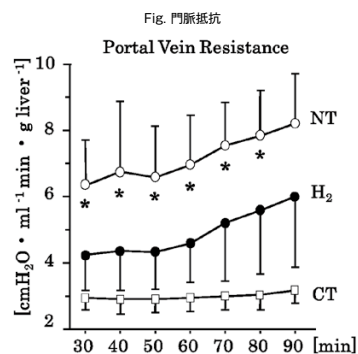
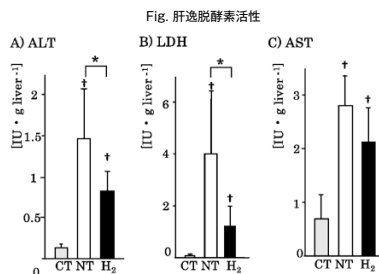
■ 基礎論文
Ishikawa T, Shimada S, Fukai M, Kimura T, Umemoto K, Shibata K, Fujiyoshi M, Fujiyoshi S, Hayasaka T, Kawamura N, Kobayashi N, Shimamura T, Taketomi A. Post-reperfusion hydrogen gas treatment ameliorates ischemia reperfusion injury in rat livers from donors after cardiac death: a preliminary study. *Surg Today*. 2018 Jul 6.

■ 要旨
【背景】肝移植における慢性的なドナー不足は世界的に重要な課題である。ドナー源拡大のために心停止後ドナーから (Donation after Cardiac Death; DCD) の臓器提供が注目されている。水素ガス (Hydrogen gas; H₂) は近年注目され、当研究室では、長期冷保存後のラット肝の再灌流時にH₂を投与し、IRIの軽減に成功した。本研究の目的は、DCD肝の冷保存後再灌流における、再灌流時H₂投与の有効性を評価することである。
【方法】

ラットを用い3群作成した。CT対照群：心停止をさせずに肝臓を摘出し、冷保存せずに直ちに再灌流した。NT無治療群：30分の心停止後、4時間冷保存し、再灌流した。H₂水素群：NT群と同様の条件で肝臓を摘出、冷保存し、再灌流時にH₂を投与した。単離肝灌流装置で90分間、再灌流し評価した。
【結果】

- 1) 肝障害：HE染色、アポトーシス、肝逸脱酵素活性が、H₂群で有意に改善した。
- 2) 微小循環：門脈抵抗はH₂群で有意に改善した。
- 3) ミトコンドリア機能：ATP産生量、酸素消費率はH₂群で有意に改善した。
- 4) 肝の統合的機能：胆汁産生量はH₂群で有意に改善した。
- 5) レドックス：GSH/GSSGはH₂群で還元側へシフトした。
- 6) シグナル：H₂群では、MKK4、JNKのリン酸化、Caspase3の分解が抑制された。

【結論】DCD肝に対するH₂投与により微小循環の改善、ミトコンドリア機能の維持、適切なレドックス状態の維持が認められた。その結果、細胞死が抑制され、IRIが軽減された。H₂はMKK4-JNK経路による障害を抑制することが初めて示された。



■ 学位取得者（修士）

中藪 拓哉



■ 学位取得年月
2018年3月

■ 学位論文名
小腸冷保存障害に対する新規抗酸化物による障害軽減法の探索

■ 要旨
【背景と目的】小腸移植は小腸機能不全に対する唯一の根治的治療である。小腸は虚血再灌流障害を受けやすく、術後成績は満足できるものではない。本研究の目的は、新規抗酸化物質Xの小腸冷保存障害軽減効果と、その作用メカニズムを明らかにすることである。

【材料と方法】ラット小腸上皮由来細胞 (IEC6) をUW液中で48時間低温酸素化 (低温酸素化灌流を模倣) または、低温低酸素化 (単純冷保存を模倣) し、その後培地に置換し通常培養した。両モデルで至適投与タイミング、投与量をMTT代謝、ATP量、細胞障害により検討した。ミトコンドリア膜電位、細胞死、脂質過酸化、ミトコンドリア内のAIF量、細胞質の生存シグナル、抗酸化タンパク質、核内の転写活性因子を評価した。

【結果】1.0mMの冷保存時投与が至適と考えられた。物質Xは両モデルでミトコンドリア膜電位の維持、細胞死の抑制、AIF放出の抑制、生存シグナル(PI3K/ Akt/ mTOR/ p70S6K)増強、脂質過酸化抑制、抗酸化タンパク質 (HO-1、NQO1、TRX1) 発現増強が認められたが、Nrf2ではなくc-Junの核内移行の増強作用に起因する可能性が示唆された。

【考察】物質Xは低温下でミトコンドリア障害、酸化ストレスを軽減し、細胞死を抑制した。生存シグナルのリン酸化増強、c-Junの核内移行促進による抗酸化タンパク質の発現増強が作用機序の一つと考えられた。

【結語】物質Xは小腸の冷保存障害軽減に有用と考えられた。

